

写真撮るのを忘れるほどの盛り上がり!!

Ⅱ2025年度総会&付帯行事報告Ⅱ



去る6月19日、本年度総会が会員114名中27名の出席と65通の委任状をもって、「アートホテル小倉・ニュータガワ」にて行われました。

会は例年どおり仁保支部長の挨拶に続き、大学代表としてご出席の岸本直之副学長（先端理工学部）と校友会代表の小川信正副会長（1967年・文卒。総会資料ではお名前を間違ひ失礼いたしました。この場をお借りし、改めてお詫び申し上げます）にそれぞれ大学、校友会活動の現況報告をかねたご挨拶をいただきましたが、今年から深草学舎が新しくなったということで、特に道を挟んだ南と北のエリアを接続するため設けられた上空通路・結連橋などはぜひ見てみたいと思わせられたことでした。

議事は黒田幸裕さん（1980年・文研卒）議長のもと、滞りなく審議されすべての議案が承認されました。なお役員が任期満了となり、支部長及び監査の選出が行われました。支部長は続投ですが、その他副支部長以下、支部長任命の役員の詳細は同封の総会資料に掲載があります。他の議案と併せてご一読ください（ご欠席の方にのみ郵送）。

総会終了後、本年は記念行事としてご講師に川柳作家の唐鎌美鶴氏（柳名・お鶴さん）をお迎えし、『お鶴さんの川柳講



総会にてご挨拶の岸本副学長

座「川柳で元気になりました〜」を開催いたしました。簡単な川柳についての説明や川柳の歴史の話の後、実際の川柳（歴史的なものから自作のものまで）を題材にその面白さをお話いただきましたが、謎解きのような一面もあり、予定の時間があっという間に過ぎていった楽しい講座となりました。そして最後に10分ほど、ご講師に選をお願いした参加者の作句の時間をとっていただき、懇親会に臨みました（休憩中も頑張っていた人、多数あり）。

懇親会は校友会本部からのもう一人の来賓、嶋田知明理事（2005年・文卒）の乾杯の音頭で始まりましたが、嶋田理事は当支部の隣接地域・中津市からの参加でしたので古くからの知友もいたりで、すっかり溶け込んでいました。食事を取りつつひとしきり話もはずんだ後、まず、先程の講座を受けて作ってもらった参加者の川柳から、ご講師より優秀作品3点と佳作の5点を選んでいただき表彰の次第となりました。作品の面白さもさることながら、新役員の藤上良裕さんセレクトのお「鶴」さんにちなんだ入選の賞品の数々や、ご講師自ら準備してきていただいたその著書『お鶴の七五七』が注目を集め、大いに盛り上がった川柳大会となりました（3ページに受賞者と作品を掲載しています）。

その後いつものようにゲーム大会を行い、最後もいつものように〈逍遙の歌〉を歌い懇親会を終えました。相変わらずの少人数でしたが、藤上夫妻の息子さん・和裕くん（小4）の活躍もあったりで、講演会、懇親会ともに記録写真を撮るのを忘れるほど盛り上がった（すごい言い訳ですが…）今回の集いでした。来年はまた一人でも多くの皆さんのご参加をお待ちしています。



龍谷大学での思い出といわれてまず入学式から振り返ろうと思ったが、これがまったく覚えていない。大変な人見知りである私は緊張で凝り固まり、人の多さに圧倒されながらとにかく着慣れないスーツが窮屈だったという印象しかない。

そもそも入学から数えれば10年以上も経ち、鮮明には思い出さないこともたくさんある。あまり瑞々しい思い出は語れないが、3点ばかりを手掛かりに記憶を掘り起こしてみたい。

まず伝道部について。私が進路について考え出した当初から龍谷大学が志望の先端にあった。というのも伝道部の皆さんが私の生家のお寺の子ども会に毎年夏季巡回で来てくれていて、明るく子どもたちを引っ張り楽しませてくれる姿に憧れを抱いていたからだ。

入学後すぐに入部し、活動に動しんだ。専攻が臨床心理学の私からすると、部の研究会は真宗学についての貴重な学びの場であった。また、夜間くいな橋の公園で子ども会でのレクリエーション練習をしたり、飲み会でみんなと騒いだりいろいろな話をしたり、時には酔っ払った人を介抱したりするのですら楽しかった。

専攻に集中するため一年で退部することになったが、皆さんのご厚意で退部後も時々は部員同様に活動に参加させてもらい、たくさ

ん楽しい時間を過ごした。おかげさまで伝道部での思い出は楽しいことばかりが浮かぶ。

次に臨床心理学について。龍大志望ながら心理学を学びたいと考えていた私にとって、龍大に当時それを学べる学科のないことだけが気掛かりだった。しかし私が高3の年に臨床心理学科が新設され、渡りに船にもほどがあると思えたのを鮮明に覚えている。

私は臨床心理学科の2期生だが、教授陣は錚錚たる面々で、社会人となった今でも時々著書を読み返しては学びを深めている。

校友リレーエッセイ

京都での贅沢な日々

2017年・文学部卒

眞田 久音



ゼミ、友人、課題、卒論、実習、ボランティア……。それぞれ苦労もあったが、思い返すと、それも含めて贅沢で楽しい学びの時間であった。今考えると赤面してしまうような背伸びした議論をしていたし、理想ばかり高く漠然としてまったくまとまらない卒論を書いたりもした。友人とやたら鍋やたこ焼き器を囲みたくさん映画を見た。振り返ればもっとやりようがあった気もするが、当時の私からすると精一杯学びを深めた、思い出深い4年間であった。

最後に本願寺について。三回生から学び舎が大宮へ移り、当時住んでいた学生マンションから自転車で学校へ向かうと、必ず本願寺の前を通った。空きコマがある時には図書館か本願寺に入り浸っていた。

御影堂まわりの廊下に腰掛けて、ただ境内を眺めるのが好きだった。新緑の四季には緑が綺麗で、秋には銀杏の黄色が賑やかだし、冬には心を引き締めてくれる寒さに考え事がはかどった。御影堂や阿弥陀堂で、ただ親鸞聖人や阿弥陀さまの前に座り時間を過ごすこともあった。気が向けばふらりと常例布教をお聴聞させていただき、寒い日にはお茶所でコーヒーを飲みながら暖を取ったり、友人と夜通しカラオケに行つてそのままお晨朝(朝の勤行)にお参りしたこともあった。

自坊に帰ってから本山参拝の機会はそうそうあるものではないようになってしまったが、当時は参拝とも思わず、日常の中に本願寺があった。とても贅沢な時間だった。

私は現在地元に戻って生活していて、恩師やあの頃の友人とはどうしても疎遠になっていく。それでも龍谷大学での思い出は悠然と私の中に息づいて、思い出すたび懐かしさとともに力を与えてくれる。京都で過ごしたあの4年間は私を支えてくれる大きな柱となっていると、いま改めて感じている。

川柳大会、結果発表！！



【特選】村上顕さん（2001年文卒）

お鶴さん川柳講座特製トートバッグ

【優秀賞】西明龍晃さん（1988年文卒）

ボックスに居座る神は四回生

賞品
鶴柄風呂敷

アイラブユーいつも言うのは嫁以外

品賞
小正釀造米焼酎メローコヅル磨

【佳作】伊藤宗玄さん（1977年文卒）
 老けたなと同級生で我を知り

【 〃 】 沓屋敬之さん（2001年文卒）

同窓会何先生と友が聞く

【 “ 藤上和裕くん（小4）】

滋賀県へ早く行きたいなおじいちゃん

加藤砂恵子さん

(1987年文卒)

クラス会話題に困り、ペットの話

【 〃 】 中村和宣さん（1978年文卒）

ゴルフ場薬の数は勝っている

佳作賞 講師著書『お鶴の七五七』

やっぱり〃遊び〃は本気がおもしろいと

改めて感じた川柳大会でした。ご

参加いただきました皆さまには、

協力のほど感謝申し上げます。



物語会員の お知らせ

1980年，文学部研究科卒

藤崎秀勝さま（令和7年7月15日没）

1962年・文学部卒

白川義孝さまへ令和7年8月20日没

*ご生前中のご協力に感謝し、謹んで
哀悼の意を表します。

事務局雜感

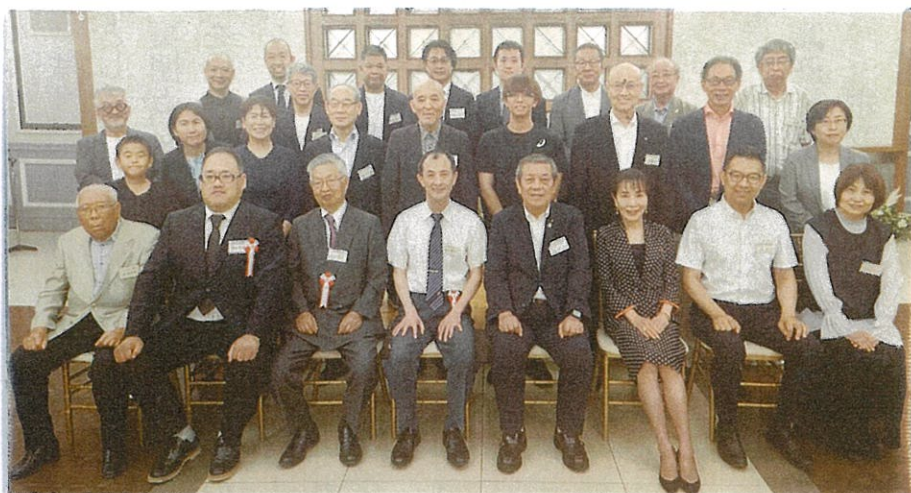
▼このたびは発刊の遅れなどふっとんでしまいそうなきすをしてしまいました。前回の『黎明』は第17号のはずでしたがそれを18号としてしまい、〃幻の17号〃を作り出してしまいました。

あんまり気付かれることはないだろう、と思っていたら結構な数の人から、あれ17号がない、どこにかへやってしまったのかと思つた、と聞かされ、深くお詫び申し上げるところです。何を考えて、と言うよりあまり深く考えなかったからなのでしょうが、単独編集の欠点が如実に出てしまい、ならばこそチェックが大事と改めて思ったことでした（さて、今回はどうでしょう?!）。

▼それにしても暑い夏でした（残暑も厳しい!）。暑さとともにそれなりに忙しい日が続き、考えることもできない状態でした。9月に入つて幾分過ごしやすくなって、ようやくこのたびの発刊となりました。来年もこんなかと思つとつんざりしてしまいましたが、来年は（しつこいようですが）結成10周年となり、暑さに負けていられません。掛け声ばかりでなかなか具体的な内容を発表できずに恐縮ですが、今から段々と気分を高めていきたいものです。▼少しずつですが、新規加入の方が増えてきました（亡くなつたりされる方もいるので全体では増えません）。来年はみんなで大々的に10周年をお祝いいたしますよ。〔記・〇〕

龍谷写真館 in 北豊

◇右、岸本副学長を中心に今回の集合写真です。後ろの方の人たちは「薄く」なつてごめんなさい。10歳から97歳まで、相変わらぬ少数精鋭で頑張っていますが、もっと大人数だったらさらに楽しいだろうなと思っています。来年を期待しています。



◇下、総会にて仁保支部長のご挨拶。今年は会場がホテルニュータガワとなり、また新たな感じでの総会&懇親会でした。



◇下、川柳大会特選の賞品で、目出度くお鶴さんの手に渡った特製バッグ。丸（特撰）の上に「お鶴さん川柳講座」と書かれています。「北豊支部」もいいですね！右、それを手にするお鶴さん。講演中の写真がなくて、失礼いたしました。



◇右、こちらはゲームでの優勝賞品。いつも逍遙の歌のエールをきってくれる若永さんが見事持って帰りました。丸の中には『黎明』と書かれています。

◇右、川柳大会・佳作入選の表彰式。左から伊藤、沓屋、藤上、加藤、中村の各氏。詳細3ページをご覧ください。優秀作入選者は写真を取り忘れていました。ご寛恕のほどを...



◇右、会員の村上順滋氏と副会長の小川氏。お二人はどこかでお知り合いだったようで「はい、ピース」！人間なにかしらつながっているものです。下、二次会もまた楽し!!デュエット中の佐々木ご夫妻。

